

四季の風



■発行責任者／病院長 金岡 祐次
■編 集／大垣市民病院広報・企画委員会

広報 第55号

•発行 平成28年7月1日•

理 念

患者中心の医療・良質な医療の提供



2016年4月14日、16日に起きた熊本地震のDMAT派遣として、4月18日～21日に当院のDMAT（災害医療派遣チーム）が、熊本赤十字病院での医療支援を行って参りましたのでご報告させていただきます。

熊本地震でのDMAT (災害医療派遣チーム)活動報告

救命救急センター 坪井 重樹

★熊本市内の様子

4月18日に新幹線とレンタカーでほぼ1日かけて熊本入りしました。熊本市内の市街地は、全壊するような建物はごく一部でしたが、屋根瓦や外壁、塀が崩れていった家屋は至る所にありました。電気は復旧済みでしたが、断水は広範囲、ガスも地域によって停止している状態で、コンビニは一部営業、飲食店は、ほぼ全店休業状態でした。



★熊本赤十字病院での活動

我々は熊本赤十字病院にて、4月19日、20日の救急外来診療の支援を行いました。熊本赤十字病院でも壁にひびが入り、一

4月19日まで一般外来が閉鎖していました。これもあり、患者は平均して救急車が40台、救急外来受診者は1日400名ほどでした。当院の救急外来が最も忙しい時期で救急車が30台前後、受診者1日300名なので、これはかなりの数と忙しさになります。支援期間中は日勤、夜勤ともDMATから5隊、日赤の救護班から2隊の支援を行ったため、現地の診療負担はすいぶん軽減できたと思います。

我々の勤務は8時から20時までの12時間で、業務の円滑化のため現地の研修医2年目の先生とコンビを組み、電子カルテやオーダー方法などいろいろ助けていた



(P2に続く)



い事だと思いました。

★最後に

我々にとっては2日間の『非日常』でしたが、被災者の方々にとってはこれが『日常』としてまだまだ長い戦いが続くのだと思うと心が痛みました。その中で我々を温かく迎え入れてくれ、自分たちも被災者であるにもかかわらず、患者さんに真摯に向き合つておられた熊本赤十字病院のスタッフの皆様の前向きな姿勢には感銘を受けました。

我々が診療した患者さんの中には、地震によってけがをされた方、予約受診ができないまま体調を崩された方、断水により透析時間が短くなつたことで水分を取るのが怖くなり、逆に脱水になつてしまつた透析患者

の方、患者の介護で心身の疲労が限界に達していたご家族の方など、多くの方々に直接的、間接的な震災の影響を感じました。2回目の地震以降は自宅を避けて車中泊をする方が増えており、マスコミの報道で工コノミークラス症候群が不安になり受診された患者さんも複数名おられました。

支援活動中も時々余震がありました。ドドドドーっという数秒の揺れが数秒ですぐ治まることと、施設が新しくしっかりしている事もあり恐怖は感じませんでした。短時間でも余震にはすぐ慣れてしまい、こういった状況下で2回目の震度7の地震が起きた事を考えると、非常に恐ろし

い事だと思いました。



診療部 専門医が教える家庭の医学

夏の対策

「水分補給について 高齢者を中心」

総合内科 鈴木 賢司

熱中症搬送数が新聞を賑わしています。熱中症のみでなく、食欲減退などさまざまな理由で脱水症状を起こしやすい季節です。熊本震災で報道されたとおり、脱水は血栓症を助長するなど重篤な疾患になることもあるため注意が必要です。脱水を予防するための水分の摂り方に

いて少し触れてみたいと思います。

【喉が渴いたから飲む】でなく【定期的に飲む】

喉の渴きを感じる時にはすでに水分が不足しています。水分が不足しないようにするには「渴く前に飲む」。特に高齢の方は喉の渴きを感じにくくなっていますので、時間を決めて少量ずつ、食事以外に1日1～1.5㍑を飲むことが薦められています。

【下痢・嘔吐と塩分（ナトリウムやカリウム）】

発汗の時に水分のみでなく塩分を補うべきとすることはよく言われていますが、下痢や嘔吐が見られる時には、発汗以上に塩分を失います。スポーツドリンクや塩分を含んだ飴などを用いて補充しましょう。水分についても一気に補充することは難しいと思いますが、少量ずつ頻回の補充を心がけましょう。

【高齢者独特の事情と周囲の援助】

高齢の方は、頻尿になるのが辛いからと水分を摂ることを控えようとされます。また、喉の渴きだけではなくて、暑さも感じにくいため水分を摂ることが少なくなりがちです。一方、尿は薄い尿になりやすく、若い方より水分が多く

逃げてしまいます。さらには、体内的水分貯蔵庫である筋肉が少なくなつてしまい、水分の貯蓄がないため脱水に陥りやすくなります。このような事情を周りの方が理解して、積極的に水分補充をさせてあげてください。

【疾患との関係】

心臓病・高血圧・糖尿病などをお持ちの方は、水分制限・塩分制限があつたり、スポーツドリンクに含まれる糖分が問題になつたりすることがあります。主治医の先生に個々の対応の仕方を尋ねておかれると思います。

【最後に】

水分を十分に摂ることができない時、下痢や嘔吐で水分補給が追い付かない時などは、医療機関でご相談ください。ぐつたりしたり反応が鈍くなつたりした時などはすぐに受診させてください。

【追加】

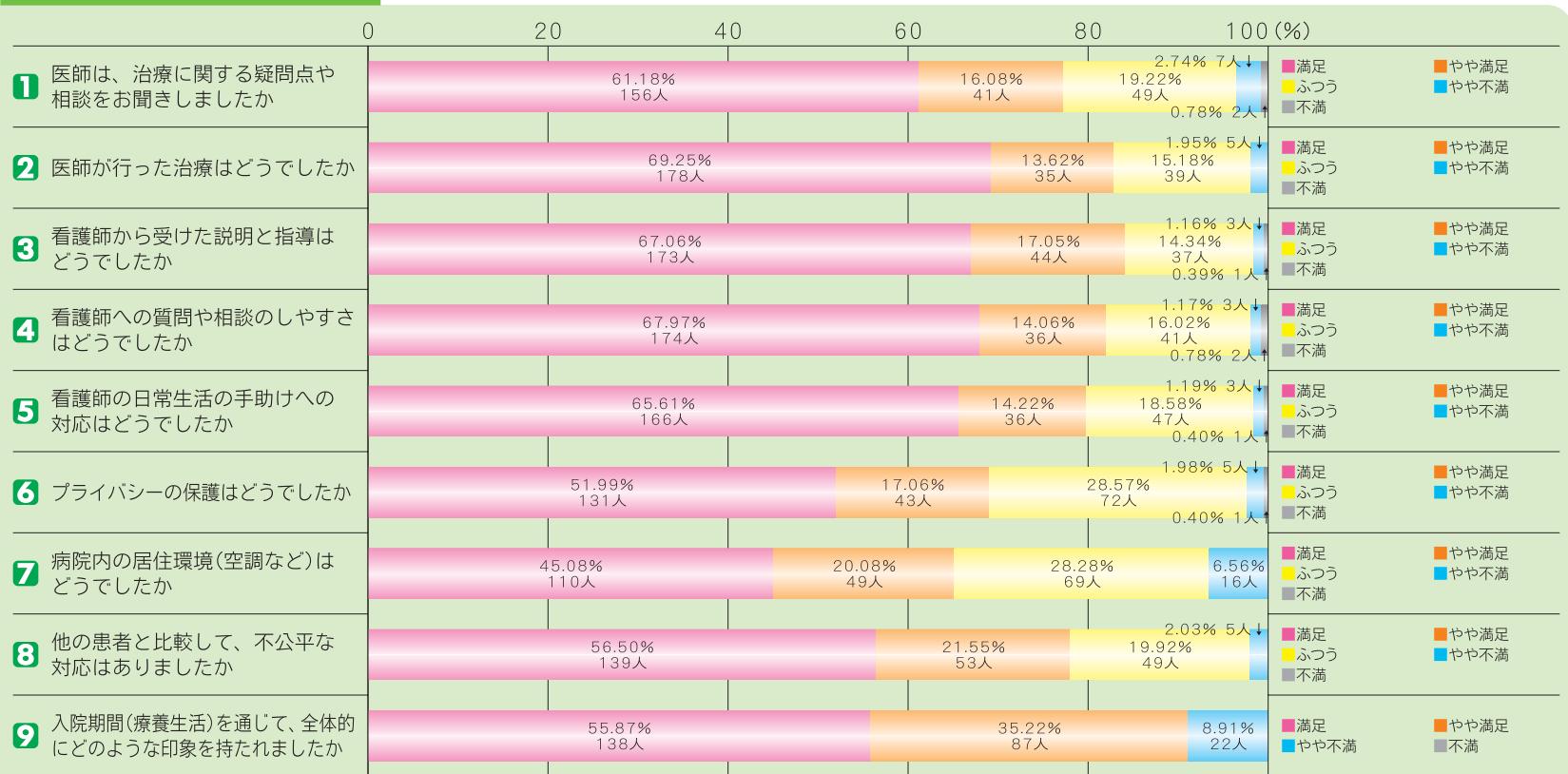
熱中症を予防するために、空調は重要なポイントです。上手に利用して熱中症を予防してください。



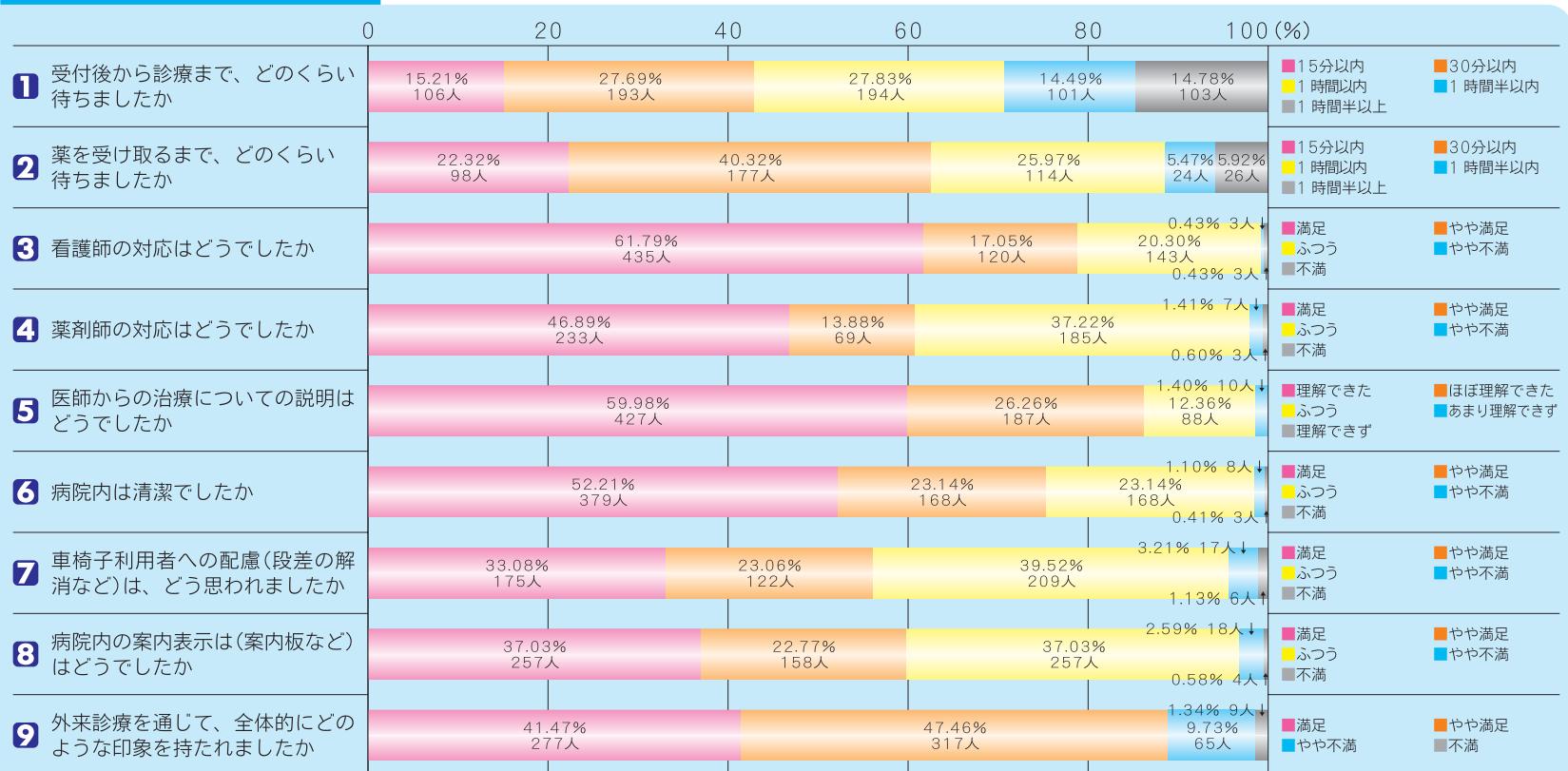
患者満足度調査

結果報告

入院に関するもの



外来に関するもの



また、ご報告した調査結果のほか、施設的な改善要望や待ち時間、接遇面など様々なご意見・ご要望をいただきました。

今回の調査結果につきましては、今後の病院運営に活用させていただき、患者さんに対するサービス等の、より一層の充実に努めてまいります。

なお、ご協力いただきました患者さんには、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

当院における問題点の改善や患者満足度の向上に活用するために実施した「患者満足度調査」の結果についてご報告いたします。

調査は、「入院に関するもの」は、平成28年1月21日(木)～27日(水)に退院された患者さん、「外来に関するもの」は、平成28年1月28日(木)、29日(金)に外来受診された患者さん一部を対象に実施し、それぞれの調査項目のうち、主な9項目の結果について、ご報告させていただきます。

お知らせ

第10回がんの市民公開講座

『がん』になっても輝いて暮らしていくために
～アピアランスサポートからお仕事のことまで～

演題：1.『アピアランスサポート』って何？
乳腺外科部長 亀井 桂太郎

2.「抗がん剤の副作用に対する
『アピアランスサポート』」

- ① 脱毛
よろず相談・地域連携課 井上 泰代
- ② スキンケア～お化粧・ネイルケアまで～
薬剤部 安達 志乃

3.「当院における緩和ケアについて」

呼吸器内科主任部長 進藤 丈

日時：平成28年7月30日（土）
午後1時20分～午後3時

場所：大垣市民病院 管理棟5階 講堂

問い合わせ先：事務局庶務課 内線 6135



※2つの講座については、事前の予約は必要がなく、どなたでも無料で参加いただけますので、多数のご参加をお待ちしております。

臨床倫理方針

1. 患者の人権を守り、自己決定権を尊重します。
 2. 患者中心の良質で高度かつ公平な医療を提供します。
 3. 患者への正確な情報提供と十分な説明を行い、患者同意のもとに信頼される医療を提供します。
 4. 他の医療機関での医師の意見を求める、セカンドオピニオンに対応いたします。
 5. 患者の個人情報の保護と守秘義務を徹底します。
 6. 関係法規、ガイドラインを遵守した医療を提供します。
 7. 生命の尊厳、医療の妥当性に関する問題については、臨床倫理委員会で審議し、治療方針を決定します。
- 当院では、以上7つの方針に基づき治療を行っています。



助産師・看護師 隨時募集

（正職員・パート）

看護部キャラクター
「リリーちゃん」

託児所完備

○応募資格／採用時満55歳までの方（准看護師は45歳までの方）

正職員：助産師、看護師免許取得者

パート：助産師、看護師または准看護師免許取得者

※正職員は夜勤も数回できる方

○勤務体制／外来または病棟勤務

○選考方法／書類選考および面接＊面接日などは後日連絡

○申し込み／助産師、看護師または准看護師免許証の写しと履歴書（写真添付）
を大垣市民病院事務局庶務課へ郵送またはご持参ください。

○問い合わせ先／〒503-8502 大垣市南郷町4丁目86番地

大垣市民病院 事務局庶務課

☎0584-81-3341 内線 6132・6133

よろず相談・地域連携課出前講座

テークマ：「知って安心！
介護保険で利用できる施設」

介護保険制度に基づいて利用ができる施設について特徴や違いなどをご説明します。

日時：平成28年8月25日（木）
午後4時～午後5時

場所：3病棟2階 デイルーム

問い合わせ先：よろず相談・地域連携課
内線 6179



大垣市民病院臨床研修の理念

- ◎社会人としての規律を守り、医師として思やりのある人格を涵養する。
- ◎プライマリ・ケアに必要な幅広い診療能力を修得する。
- ◎チーム医療の一員として、安全・安心・満足の得られる患者中心の良質な全人的医療を実践する。

当院は、臨床研修病院に指定されており、次世代の医師育成のため、上級医の指導のもと研修医の臨床研修及び学生の臨床実習を行っています。

手話通訳者を配置

当院では、手話通訳者を新たに新患受付に配置いたしました。

月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）

8時30分～12時まで

また、ポルトガル語通訳者も配置しております。

月曜日～金曜日

（祝日・年末年始を除く）

7時30分～16時15分まで

詳しくは、新患受付

（内線 6111）まで



当院は敷地内全面禁煙です。
ご理解、ご協力ください。